



TITLE:

伊藤隼三先生ヲ哀悼ス

AUTHOR(S):

---

CITATION:

伊藤隼三先生ヲ哀悼ス. 日本外科宝函 1929, 6(3)

ISSUE DATE:

1929-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200375>

RIGHT:

## 伊藤隼三先生ヲ哀悼ス

我ガ京都外科ノ創始者ノ一人タル伊藤隼三先生昭和四年五月十四日午後零時七分病患ヲ以テ鳥取市本町一丁目ノ自邸ニ於テ永久ノ眠リニ就カル、僅カニ六十六歳ナリ、洵ニ哀悼ノ至リニ堪ヘズ。

先生本姓小林氏、元治元年五月九日因幡國邑美郡吉方村ニ生ル、明治十二年七月伊藤ト改姓、明治二十二年十一月(東京帝國大學)醫科大學卒業同二十四年九月三十日迄同外科教室助手拜命、同年十一月鳥取市本町一丁目私立伊藤病院長、同二十六年四月一日鳥取縣米子病院長、同二十七年二月十二日札幌病院長トナリ、同廿九年十一月十五日ヨリ同三十二年十二月六日迄歐米ニ遊ビ、主トシテ瑞西國ベルン大學コツヘル教授ニ師事シ外科學ヲ專攻ス、同三十五年三月十七日論文提出醫學博士ノ學位ヲ受領シ、同年七月十四日京都帝國大學醫科大學教授ニ任ゼラル、是レ先任

者猪子教授ノ推薦ニ依ルモノニシテ此ノ如クニシテ伊藤先生ハ猪子先生ト共ニ我が京都外科ヲ創始シ開拓スルニ至リタリ。

伊藤先生ハ即チ第二講座擔任トシテ其ノ絶倫ノ勢力ヲ以テ教授、研究及ビ指導ニ從事セラル、コト一日ノ如ク大正十三年五月滿六十歲停年ノ故ヲ以テ教授ノ公職ヲ辭セラレ再ビ先考ノ遺サレタル鳥取市伊藤病院ヲ主宰セラル、後ト雖、後進ノ誘掖ニ向ツテ直接間接ニ多大ノ盡力ヲ致サレ以テ今日ニ至リタルハ人ノ知ル所ノ如シ、今ヤ卒然トシテ先生ヲ喪フ洵ニ哀悼ノ至リニ堪ヘズ。

先生ハ Wirmesich ノ研究者、眞正癩癧症ニ對スル コツヘル氏 手術ノ研究者トシテ内外ニ知ラレ、腦外科ニ關スル獨逸書ニハ先生ノ名ヲ見ザルハ無シ、コツヘル氏 癩癧症手術ノ成績ハ明治四十二年ブタベストニ於ケル國際外科學會ニ於テ先生ノ親シク報告セラレタル所ナリ、肝硬變症ニヨル腹水ノ外科的治療法ニ對スル研究モ亦先生ニヨリテ始メテ開拓セラレ

タルモノニシテ此ノ方面ノ指導ヲ受ケタル教室出身者ハ甚ダ多シ、胃切  
除術ニ向ツテ Kocher II ト命名セラレタル術式ハ伊藤先生ノ創案ニ成ルモ  
ノニシテ獨逸外科學雜誌ニ登載セラレタリ。(Deutsche Zeitschr. f. Chir. Bd. 92,  
1908, S. 363)

其ノ他先生指導ノ下ニ成シ遂ゲラレタル研究業績ハ枚舉ニ暇ナシ。

コツヘル老教授嘗テ評シテ曰ク「伊藤教授ノ指導ニ成ル研究ノ「テーマ」ハ  
着想何レモ嶄新ニシテ同氏ハ實ニ稀ニ見ル卓越シタル研究指導者ナリ」  
ト、蓋シ過當ノ言ニ非ズ。

先生ハ義務ノ觀念強烈ニシテ從テ公私ヲ混淆スルコトヲ非常ニ惡マレ  
タリ、亦機微ヲ察シ事物ノ成行ヲ洞見スルコトニ於テ一種獨特ノ感能力  
ヲ有シ往々他ヲシテ驚倒セシメタリ、先生曾テ宴席ノ酒間戲テ曰ク「機  
ヲ觀ルハソレ隼三カ」ト以テ先生モ亦私カニ此ノ自覺ヲ有シタリシヲ知  
ル可シ、京都外科ガ其ノ創立日淺カリシニモ拘ラズ、速カニ其ノ存在ヲ

内外ニ示シ得ルニ至リシハ全ク先生ノ機宜ノ處置ガ當ヲ得タリシニ由ル  
モノトセザルベカラズ、今ヤ卒然トシテ京都外科ノ大恩人ノ一ヲ喪フ洵  
ニ哀悼ノ至リニ堪ヘザルナリ、謹ンデ敬吊ノ誠意ヲ披瀝ス。

昭和四年五月十七日

門 人 總 代

鳥 潟 隆 三

磯 部 喜 右 衛 門

伊 藤 弘